



*Aluminum lightens the world*

アルミでかなえる、軽やかな世界

# 2022年度 第1四半期 決算説明会資料

2022年8月4日  
株式会社UACJ



# 発表のポイント

1Q経常利益 **199億円**(YoY +84億円)、棚卸資産影響前経常利益 **102億円**(YoY+52億円)  
22年度通期業績見通しについては、**経常利益 255億円、棚卸影響前経常利益 235億円**  
**を据え置く**

## 1 ■ 2022年度 1Q 総括

- ✓ 北米缶材市場を中心としたグローバルで旺盛なアルミ需要を捉え、TAA\*1、UATH\*2は好調継続
- ✓ 自動車関連については、一部市況影響を受けたが、**強みである強固な顧客基盤、多品種・用途への対応力を活か**し缶材に加えて、厚板、一般材を含む販売量増加及び、利益拡大に繋がった

## 2 ■ 2022年度 通期業績見通し

- ✓ 2Qは自動車関連が市況影響を受けるも、下期は回復を見込む
- ✓ 2Q以降、エネルギーコスト上昇、北米金利上昇、アルミ地金価格下落影響を見込んでいるが、**エネルギー価格転嫁及び、当社の強みを活かすことで、通期業績見通しは据え置く**

## 3 ■ 構造改革の進捗




- ✓ コロナ影響による自動車材認定遅れ等により、進捗が遅れていた深谷製造所下工程の移管完了
- ✓ 構造改革効果**210億円に変更なし**

\*1 TAA : Tri-Arrows Aluminum Inc.

\*2 UATH : UACJ (Thailand) Co., Ltd.,

# 外部環境の変化と対応について

## 外部事業環境の変化への対応継続、収益へのインパクトの最小化を図る

外部環境の変化と対応	国内 	TAA(北米) 	UATH(タイ) 
アルミニウム地金価格の上昇	販売価格に転嫁		
エネルギー価格の高騰	販売価格への転嫁交渉は 決着しつつある	販売価格への転嫁を実施 (市場価格連動の 価格スキームを導入済)	<b>既存の契約</b> 販売価格への転嫁に 対する理解は浸透 条件等について交渉継続 <b>新規契約</b> 市場価格連動の 価格スキームを導入
添加金属価格の高騰	添加金属を多く含む製品について、市場価格に連動した価格スキームを合意済		
物流費の上昇	—		販売価格への転嫁を実施 (フォーミュラ制を導入済)

## 1. 2022年度 第1四半期業績

## 2. 構造改革の進捗

## 3. サステナビリティへの取り組み

## 4. ご参考データ

# 1. 2022年度 第1四半期業績



## 業績 サマリー

### 経常利益 199億円(前年同期比 +84億円)

#### ■ 数量：351千トン 前年同期比 +21千トン

- UATH(タイ)、TAA(米国)の缶材が引き続き増加
- 自動車材、箔地等は、半導体不足や世界的なサプライチェーンの混乱による部品不足が影響した自動車生産遅延の影響を受ける

#### ■ 経常利益：前年同期比 大幅増

##### ◎増益要因

- 国内事業業績改善(構造改革効果含む)
- UATH業績改善
- TAA業績好調継続
- 棚卸資産影響の好転

##### △減益要因

- エネルギー価格の上昇
- 添加金属価格の上昇

2022年度 業績予想・配当予想 変更なし

## 第1四半期 業績

(単位:億円)

	2021年度 1Q (A)	2022年度 1Q (B)	増 減 (B) - (A)
連結売上高	1,738	<b>2,473</b>	735
連結営業利益	132	<b>183</b>	51
棚卸資産影響前 連結経常利益	51	<b>102</b>	52
棚卸資産影響額	65	<b>97</b>	32
連結経常利益	116	<b>199</b>	84
連結当期純利益*1	88	<b>142</b>	54
Adjusted EBITDA*2	145	<b>181</b>	36

\*1 連結当期純利益:親会社株主に帰属する当期純利益

\*2 Adjusted EBITDA: EBITDA - 棚卸評価関係

## セグメント別 売上高・営業利益

(単位:億円)

	2021年度 1Q (A)		2022年度 1Q (B)		増減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	1,596	149	<b>2,232</b>	<b>205</b>	636	56
加工品・関連事業	340	2	<b>470</b>	<b>△ 2</b>	130	△ 4
(調整額)	△ 199	△ 18	<b>△ 230</b>	<b>△ 20</b>	△ 31	△ 1
合計	1,738	132	<b>2,473</b>	<b>183</b>	735	51



## アルミ板 品種別売上数量

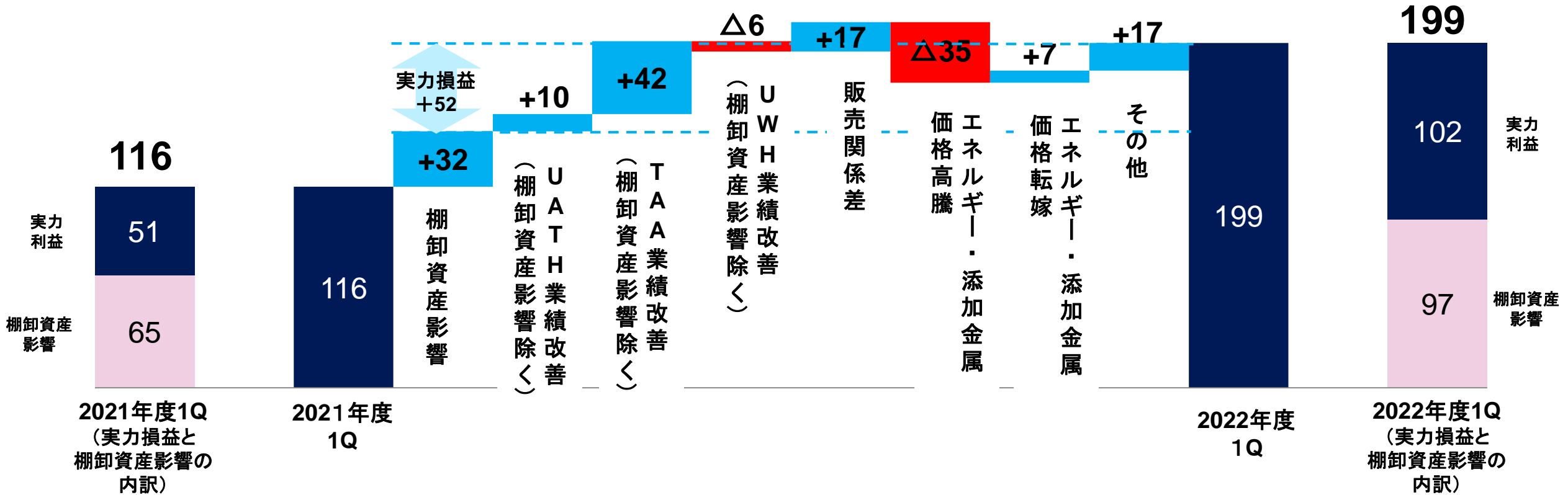
(単位:千トン)

品 種	2021年度 1Q (A)	2022年度 1Q (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材	204	<b>228</b>	24
箔 地	15	<b>13</b>	△ 2
I T 材	4	<b>3</b>	△ 1
自動車材	38	<b>30</b>	△ 8
厚 板	12	<b>16</b>	4
その他一般材	57	<b>61</b>	4
合 計	<b>330</b> ( 国内市場向け 128 海外市場向け 202 )	<b>351</b> ( 国内市場向け 128 海外市場向け 223 )	<b>21</b> ( 国内市場向け 0 海外市場向け 21 )

# 連結経常損益分析 (2021年度1Q → 2022年度1Q)

116億円 (2021年度1Q) → 199億円 (2022年度1Q)

(単位:億円)



## 連結貸借対照表

## 販売の回復、地金価格の継続的な上昇により棚卸資産等の増加傾向継続

(単位: 億円)	22/3末 (A)	22/6末 (B)	増減額 (B-A)
現金及び預金	143	218	75
受取手形及び売掛金	1,227	1,393	166
棚卸資産	2,324	2,646	323
その他流動資産	252	416	164
有形・無形固定資産	3,985	4,131	146
投資その他の資産	356	378	21
資産合計	8,287	9,182	894
支払手形及び買掛金	1,186	1,239	54
短期借入金	1,419	1,911	492
長期借入金	1,975	1,876	△ 99
その他	1,231	1,357	125
株主資本合計	2,090	2,191	101
その他包括利益	190	376	186
非支配株主持分	196	232	36
負債及び純資産合計	8,287	9,182	894

アルミ地金等  
価格上昇による増加

# 連結キャッシュフロー計算書

アルミ地金、添加金属等の価格上昇で運転資金が増加したことにより営業CFが減少

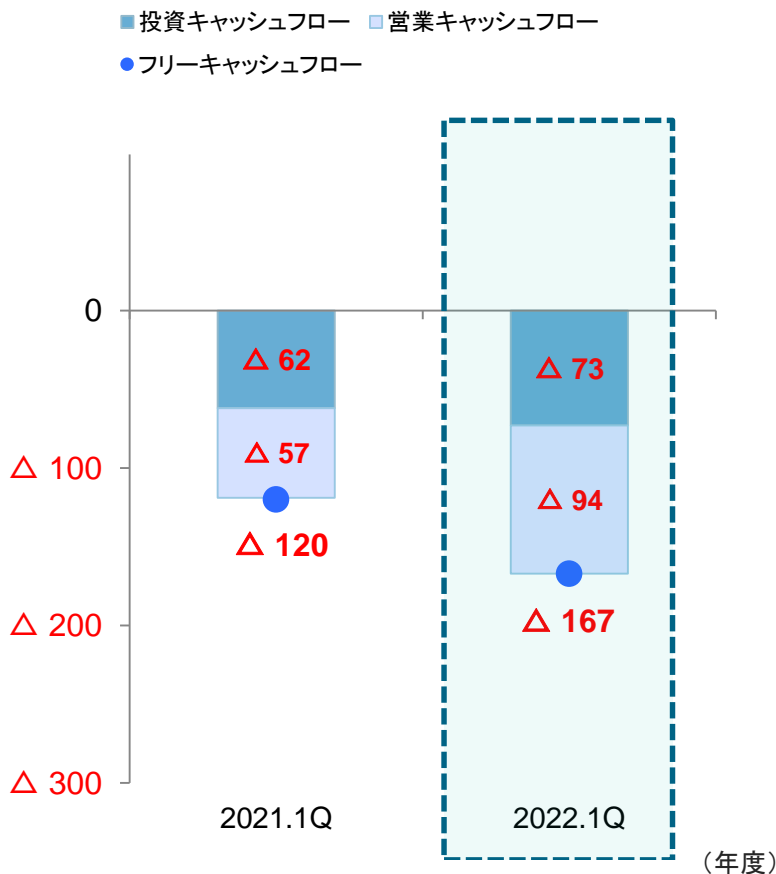
## 2022年度1Q 連結キャッシュフロー

(単位:億円)

税引前利益	199
減価償却費(のれん含む)	90
アルミ地金価格等の上昇による 運転資金の増加他	△ 383
<b>営業キャッシュフロー計</b>	<b>△ 94</b>
設備投資 他	△ 73
<b>フリーキャッシュフロー</b>	<b>△ 167</b>
配当	△ 44
ファイナンススキーム他	4.2
有利子負債にかかる為替影響 (借入金増加)	△ 111
現預金増減(△は増加)	△ 75

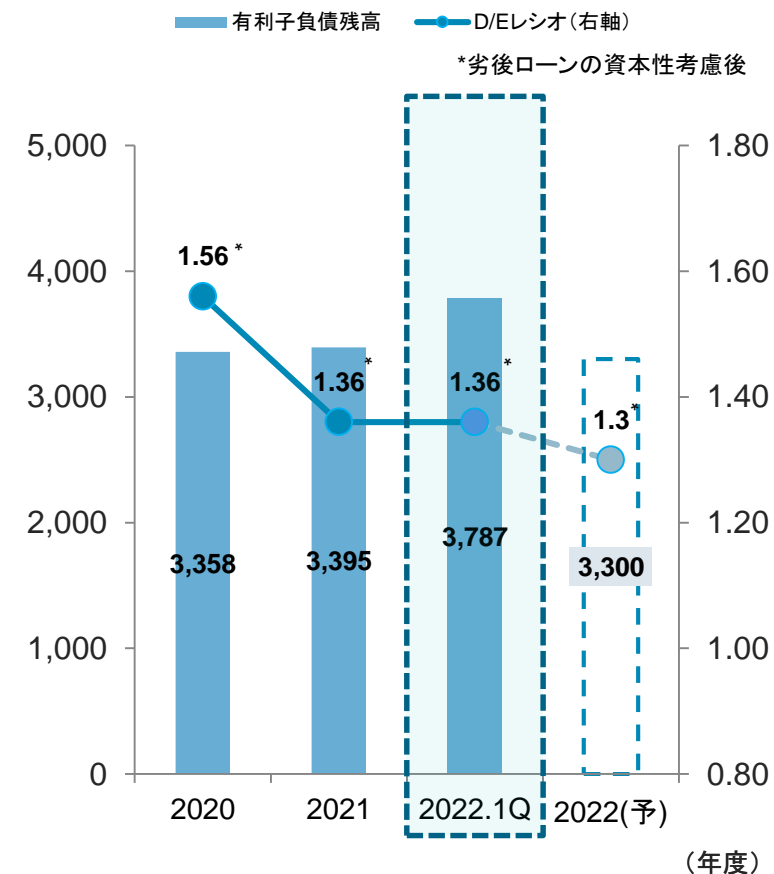
## 連結キャッシュフロー 推移

(単位:億円)



## 有利子負債残高・D/Eレシオ

(単位:億円)



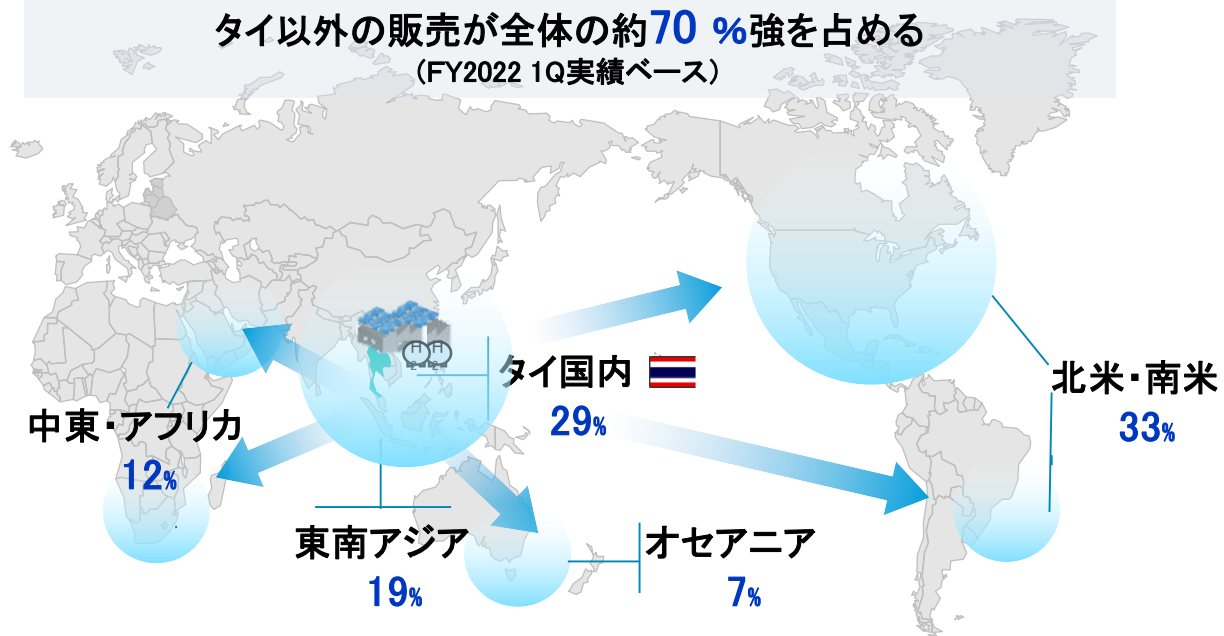
有利子負債の増加

393

# タイ(UATH)の状況 ～2022年度1Q 総括

## グローバルでの旺盛な缶需要、エアコン需要の取り込みにより増収増益

販売展開エリアの販売比率(世界25カ国)



### 収益変動要因と改善への打ち手

- エネルギーコストの高騰
- 海運コストをはじめとした物流コストの高騰
- 添加金属価格の高騰
- 物流コスト、添加金属の高騰分はおおよそのお客様と合意
- エネルギーコスト高騰分は転嫁交渉を継続

### 1Q 総括

- 需要** : 世界的な半導体不足による自動車生産調整の影響あるも、缶材・フィン材の堅調な需要は継続
- 販売** : 好調な缶材に加え、エアコンフィン材の販売も好調で月間販売量過去最高を更新
- 生産量** : **26千t**/月(2022年1～3月)
- 販売量** : **27千t**/月(2022年1～3月)
- 損益** :

(単位: 億円)

	21年度 1Q	22年度 1Q	前年同期比
売上高	287	449	162
営業利益	15	24	8
<b>経常利益</b>	<b>5</b>	<b>24</b>	<b>19</b>
棚卸資産影響前 経常利益	1	11	10

# 米国(TAA)の状況 ~2022年度1Q 総括

## 北米缶需要は引き続き好調、グローバル3極体制を最大限活用し、増収増益

### 米国飲料缶販売予測推移



出典:TAA調査による

### 1Q 総括

- 缶材需要 : 旺盛な需要環境継続
- 販売量 : **46千t/月** (2022年4~6月)  
※国内・UATH出荷分含む
- 生産能力 : 約**450千t/年**体制確立
- 増産対応 : 北米生産拠点の設備増強を検討中

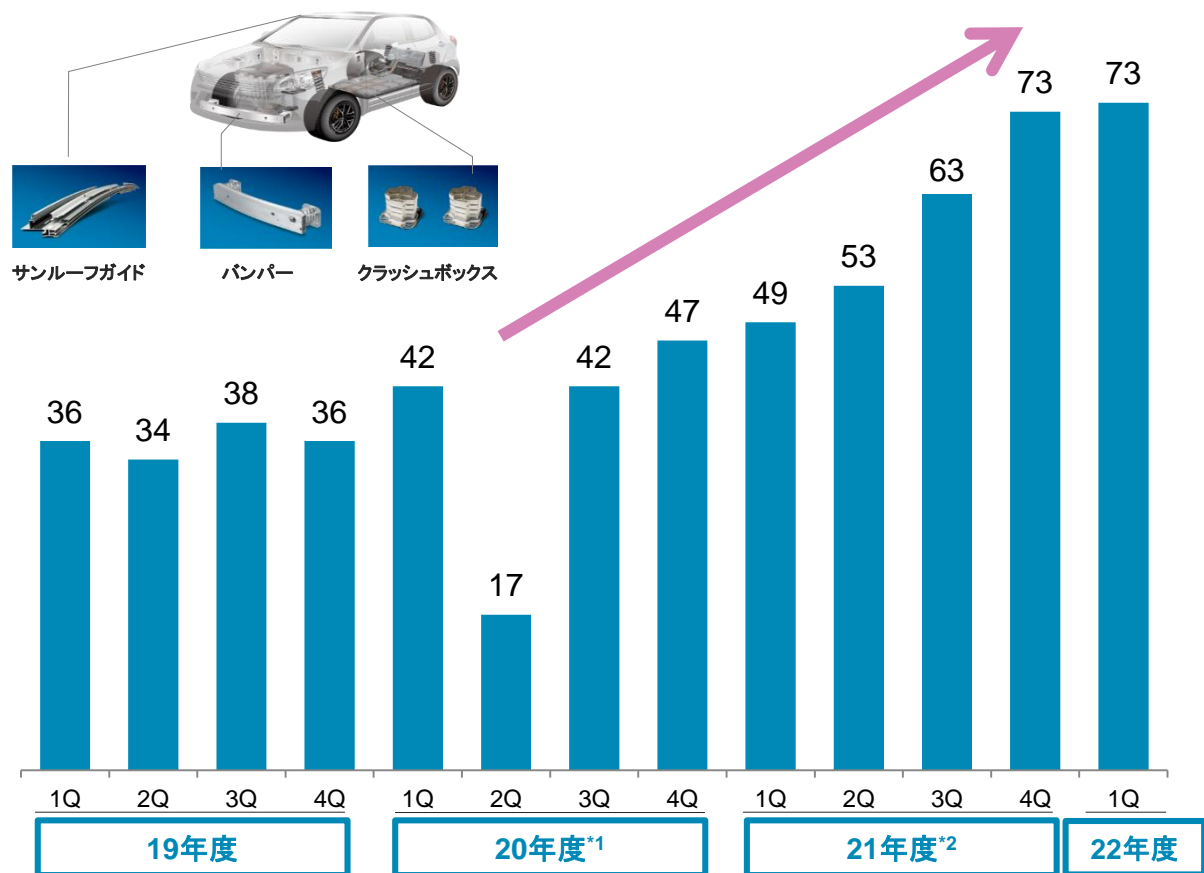
(単位:億円)

損益	21年度 1Q	22年度 1Q	前年同期比
売上高	<b>509</b>	<b>829</b>	<b>320</b>
営業利益	<b>66</b>	<b>95</b>	<b>29</b>
経常利益	<b>60</b>	<b>90</b>	<b>30</b>
棚卸資産影響前 経常利益	<b>15</b>	<b>57</b>	<b>42</b>

# 米国(UWH)の状況 ~2022年度1Q 総括

自動車生産減、インフレの影響を受けたが、受注済の大型案件が2Q以降順次立ち上がる

UWH 売上高推移(単位:億円)



\*1 20年度…2020年1月～12月  
\*2 21年度…2021年4月～2022年3月

## 1Q 総括

- 市場環境** : EV市場は拡大。需要は旺盛もサプライチェーンの混乱(半導体不足、中国ロックダウン等)でOEM供給が追い付かず、販売台数は20%減
- 販売** : 上記市場環境を受けるが、販売台数は横這いただし、LME高騰を受けて表面売上高は増加
- 生産体制** : 新押出機、アリゾナ工場、及び日系OEM向け新ラインは稼働準備が整う

(単位:億円)

損益	21年度 1Q	22年度 1Q	前年同期比
売上高	49	73	24
営業利益	△ 3	△ 10	△ 7
<b>経常利益</b>	<b>△ 4</b>	<b>△ 12</b>	<b>△ 8</b>
棚卸資産影響前 経常利益	△ 4	△ 10	△ 6

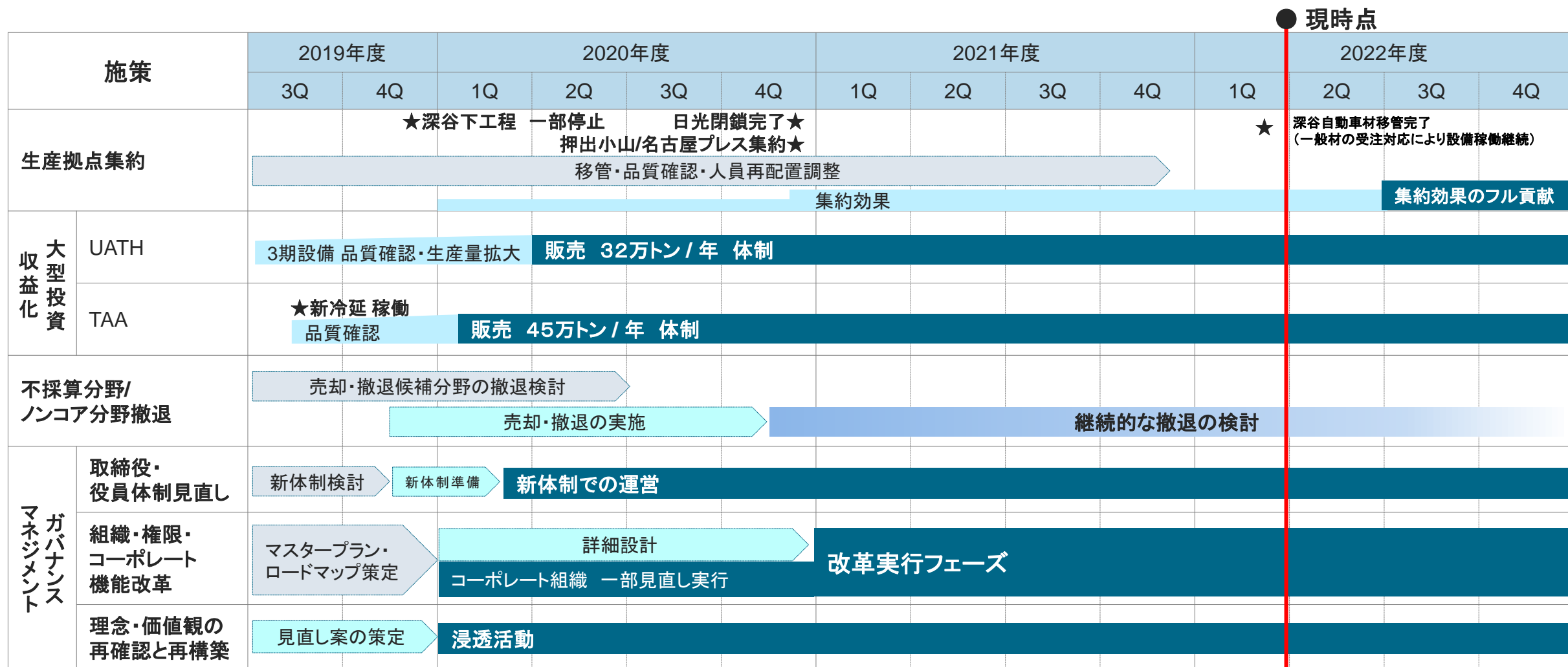
## 2. 構造改革の進捗





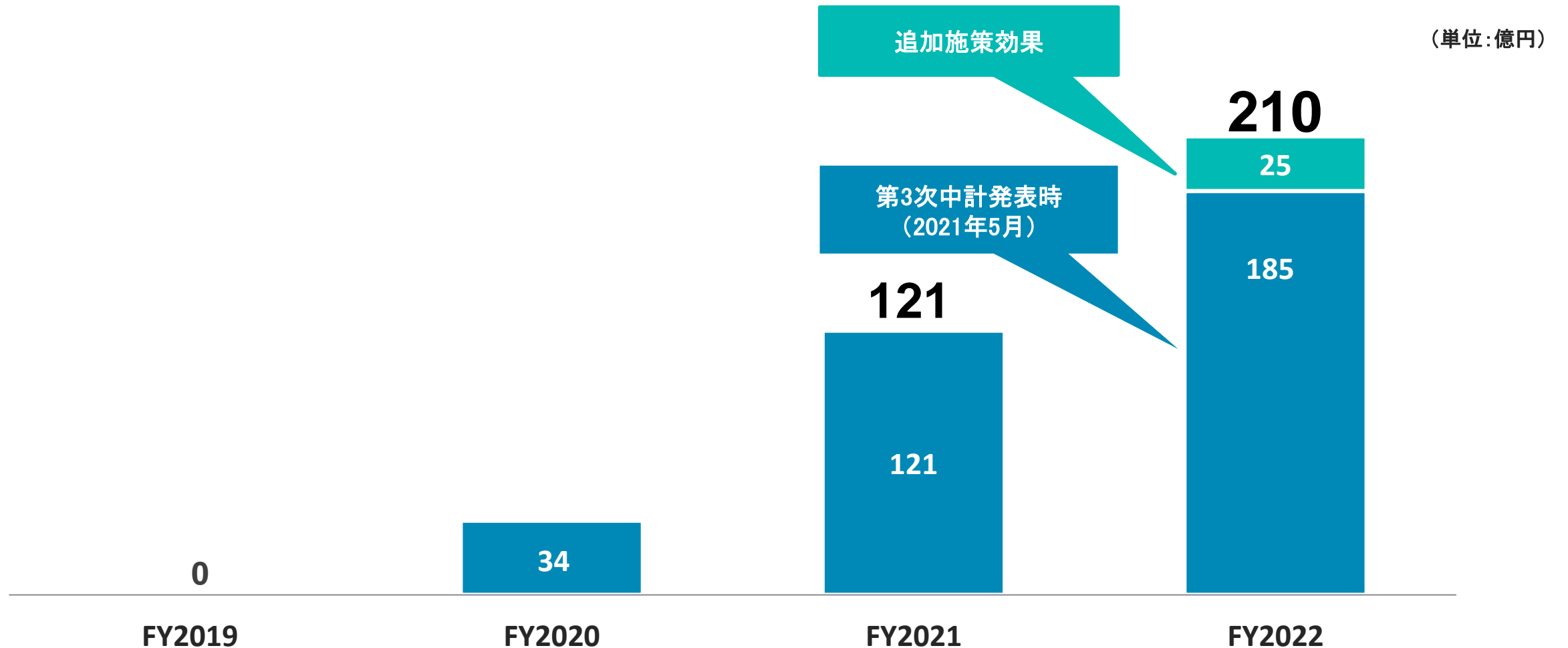
# 構造改革の進捗

## コロナ禍でのお客様認定遅れ解消、生産拠点集約遅延がキャッチアップ



# 構造改革施策の推移

生産拠点の集約をキャッチアップ、追加施策実施で210億円に目途



# 3. サステナビリティへの取り組み



## 企業理念とサステナビリティ基本方針

### UACJグループ理念

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。



#### 企業理念

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。

#### 目指す姿

アルミニウムを究めて環境負荷を減らし、軽やかな世界へ。

#### 価値観

- ▶ 相互の理解と尊重
- ▶ 誠実さと未来志向
- ▶ 好奇心と挑戦心

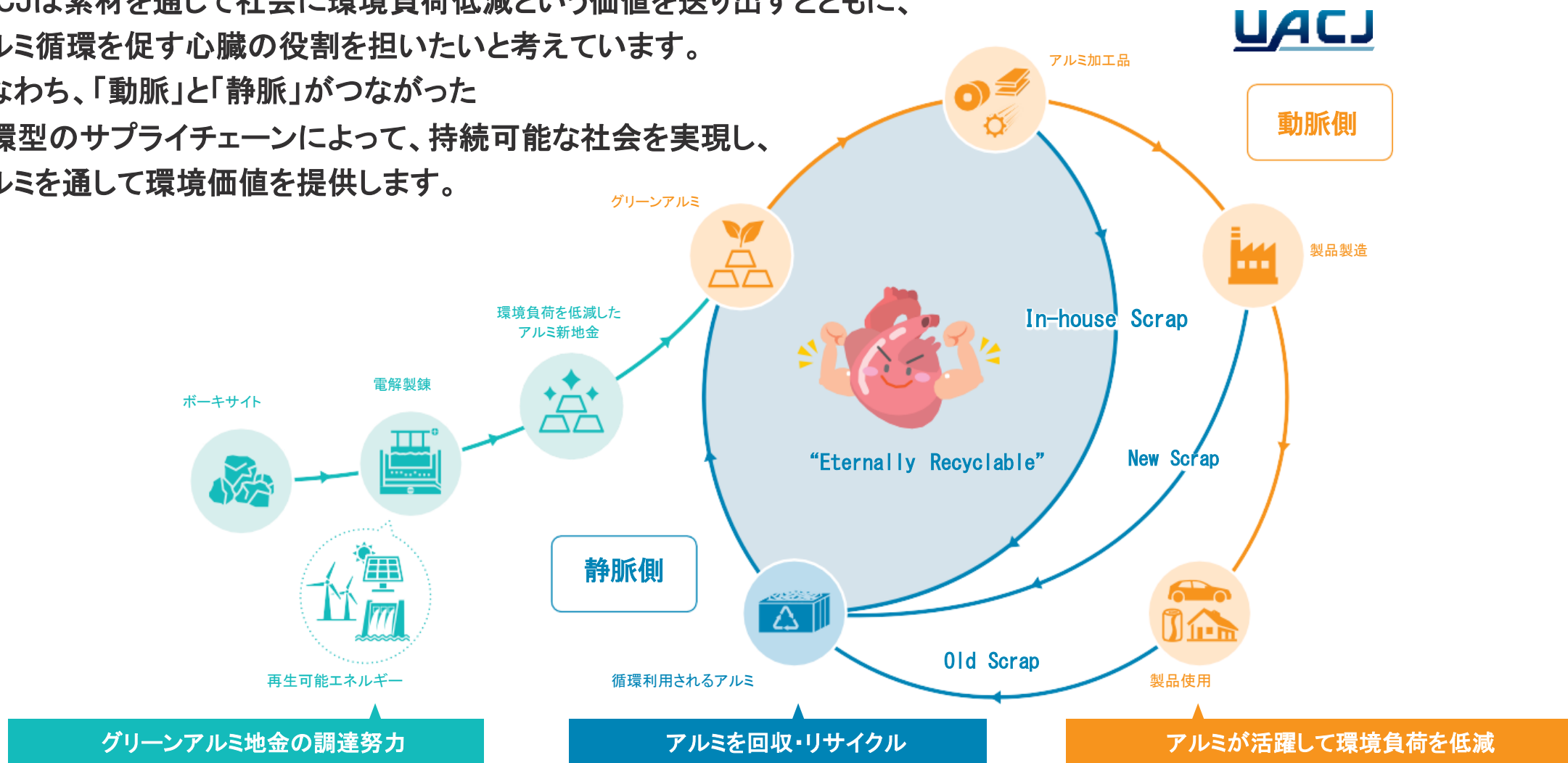
### サステナビリティ基本方針

「100年後の軽やかな社会のために」

# アルミで作る循環の輪 — クローズド・リサイクルループの心臓へ

UACJは素材を通して社会に環境負荷低減という価値を送り出すとともに、アルミ循環を促す心臓の役割を担いたいと考えています。

すなわち、「動脈」と「静脈」がつながった循環型のサプライチェーンによって、持続可能な社会を実現し、アルミを通して環境価値を提供します。



## 新規領域 - 「防災・減災」への貢献に対する挑戦

社内ベンチャー制度「UACJ Innovators」から新規領域のタネが誕生、運用に向け実証実験を開始



水の架け橋

広域災害による飲料水不足対策として、自治体・企業間で備蓄情報をデータベース化して共有し、万が一の災害時にはアルミニウム缶備蓄水を供給しあえるネットワークを提供する事業。

「防災・減災」「地球環境課題」への貢献を目指す。

<https://mizuno-kakehashi.com/>

### アルミボトル缶備蓄水の販売

「アルミニウムの長所」である  
ガスバリア性を活用した長期保管

PETボトルからの置き換えによる  
環境問題 解決への貢献

防災「自助」「共助」への貢献



### 共有クラウドシステム運用

「困った時は助け合う」  
飲料水不足の不安解消

自治体と民間との連携

法人企業・市区町村向け

### 3. サステナビリティへの取り組み

# 低環境負荷への挑戦

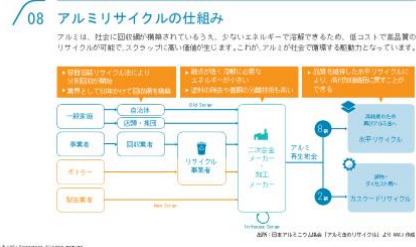
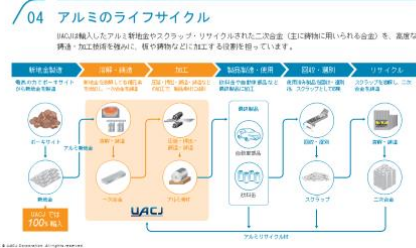
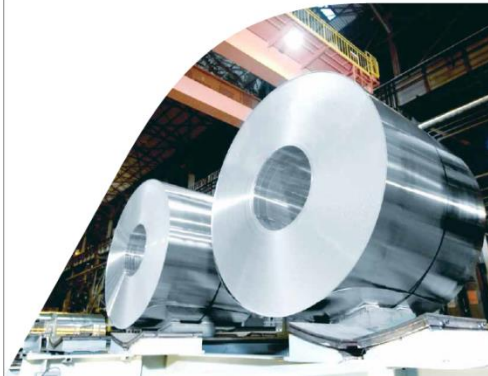
## アルミ環境ブックレット

アルミニウムの素材としての現状と、リサイクルで生み出すことのできる低環境負荷の価値、可能性の認知浸透のために制作

持続可能な素材としてのアルミの 社会における活用方法、リサイクルの方法や環境負荷について解説する

UACJ

Aluminum lightens the world  
アルミでかなえる、軽やかな世界  
アルミ製品のLCA-UACJの環境についての世界版)

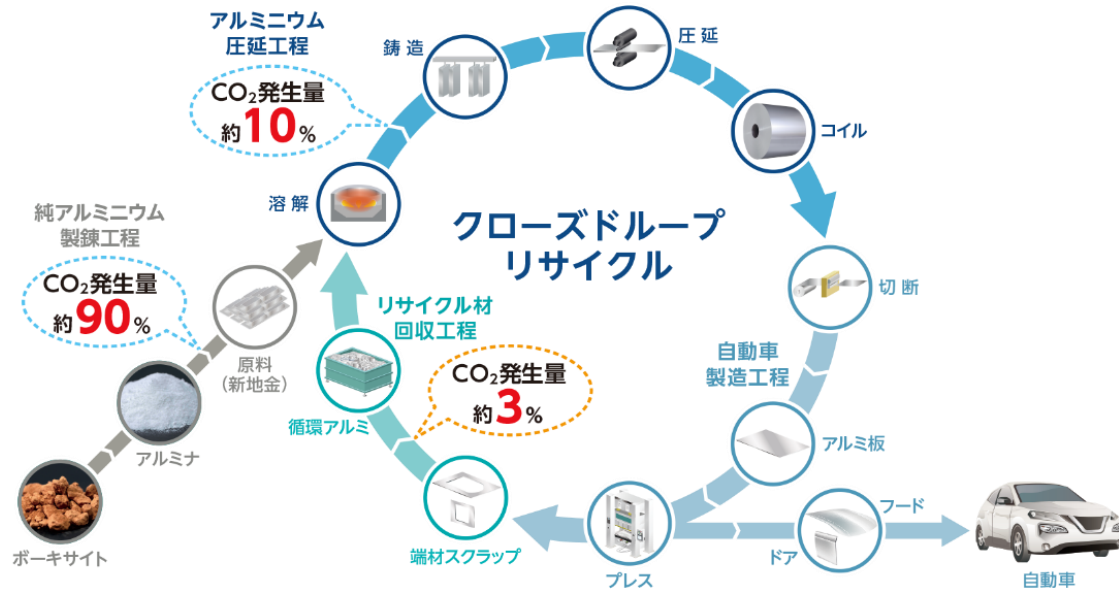


## U-ALight SMART

# U-ALight SMART

Scope3におけるCO<sub>2</sub>排出量削減による環境負荷低減への貢献

各種アルミ合金端材を使用することで、新地金量を削減し従来のアルミ材比較で素材製造時のCO<sub>2</sub>排出量を削減した新ブランド



# 4. ご参考データ





## UACJグループ理念

### 当社の存在意義(パーパス)を問い直し、グループ理念体系を再定義



#### 企業理念

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。

#### 目指す姿

アルミニウムを究めて環境負荷を減らし、軽やかな世界へ。

#### 価値観

- ▶ 相互の理解と尊重
- ▶ 誠実さと未来志向
- ▶ 好奇心と挑戦心

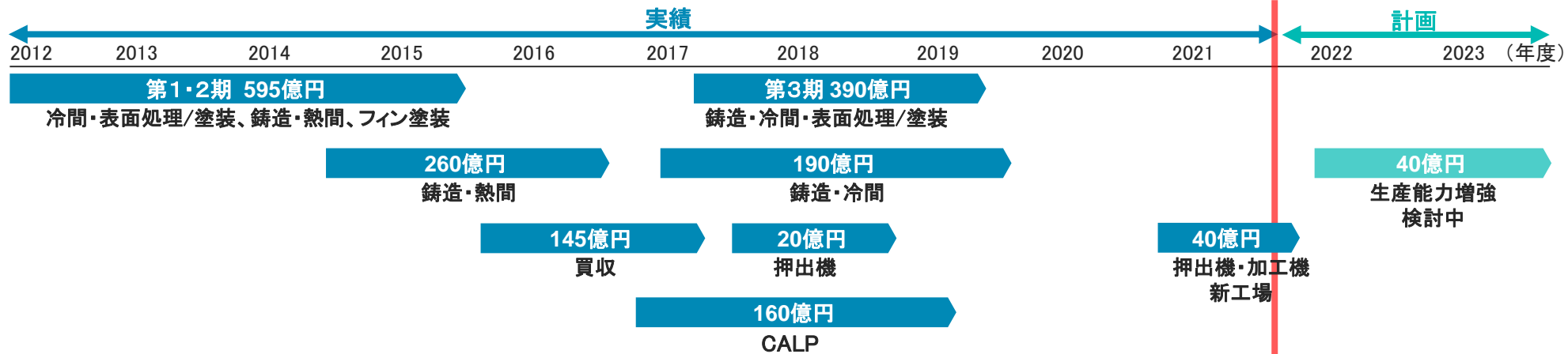
#### 行動指針/UACJウェイ



#### 4. ご参考データ

## アルミ圧延事業の産業構造について(投資とリターンの関係性)

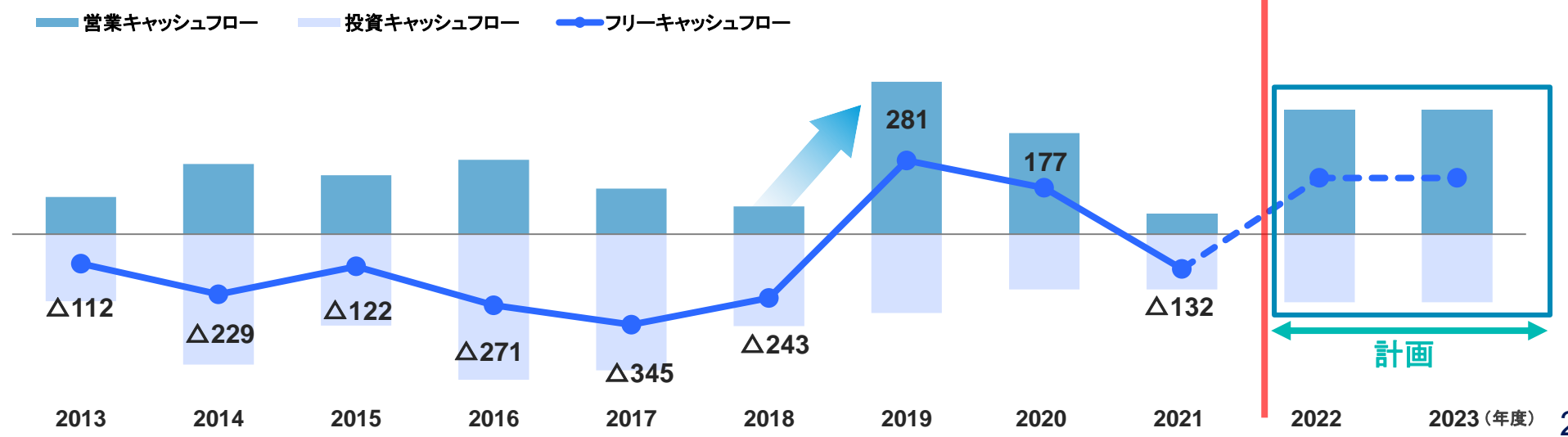
生産立上げから量産、投資の回収まで5年以上要する中、19年度より投資回収フェーズへ



主な戦略投資／投資	UATH (タイ)	985億円
	TAA (米)	490億円
	UWH (米)	205億円
	福井	160億円

注力市場、注力分野への先行投資フェーズ (2012-2019)

先行投資の回収フェーズ (2019-2023)



### 連結キャッシュフロー

2013-2021年度 実績  
2022-2023年度 計画

## 諸元と感応度

	2020年度 (3月末)	2021年度 (3月末)	2022年度 (6月末)	経常利益への 感応度
アルミ地金 日経平均 (円/kg)	243	378	<b>424</b>	10円/kg上昇した場合 → +20~30億円/年
LME (米\$)	1,802	2,796	<b>2,595</b>	\$100/t上昇した場合 → +22~35億円/年
為替 (円/米\$)	106	112	<b>134</b>	ほぼ影響なし ・燃料単価、添加金属:円高が有利
為替 (円/タイバツ)	3.4	3.4	<b>3.8</b>	・ロールマージン、為替換算差:円安が有利
原油 (ドバイ:米\$)	45	78	<b>113</b>	10ドル上昇した場合 → Δ10~15億円/年

#### 4. ご参考データ

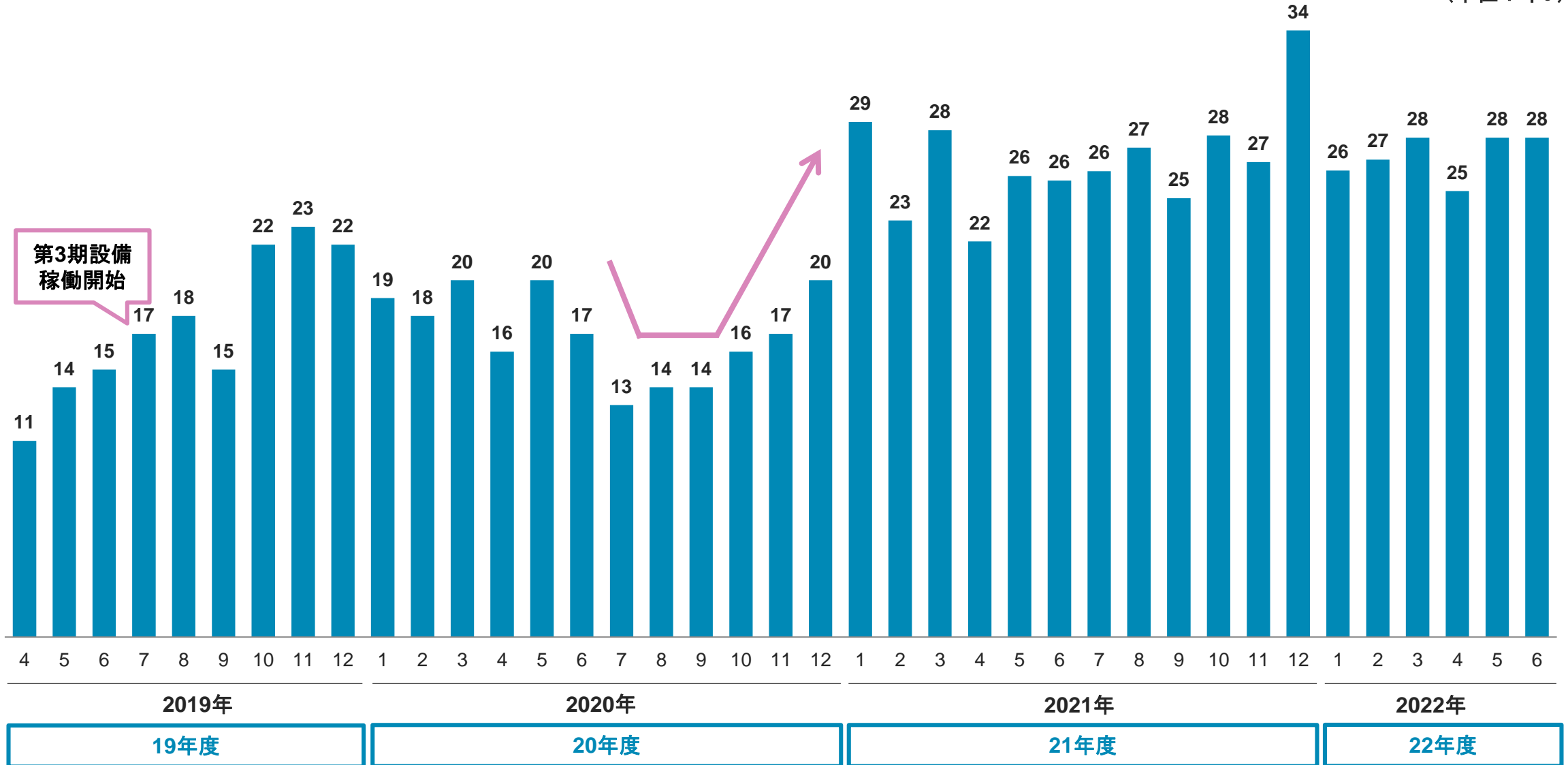
## 主要指標推移

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 1Q(単期)	2022年度 見通し
連結売上高	6,243	6,613	6,152	5,698	7,829	2,473	9,400
連結営業利益	292	149	101	111	595	183	310
棚卸資産影響前 連結経常利益	113	30	98	62	213	102	235
連結経常利益	194	62	38	60	523	199	255
親会社株主に帰属する 当期純利益	123	11	20	△33	321	142	150
設 投 備 資	一般投資	147	161	143	109	129	25
	戦略投資	365	365	347	72	79	10
	合計	215	525	489	181	207	36
減価償却費	251	307	312	334	340	90	347
有利子負債残高	3,423	3,751	3,440	3,358	3,395	3,787	3,300
R O E ( % )	6.5	0.6	1.1	△1.8	14.1	6.5	6.7
R O I C ( % )	5.8	2.3	1.9	2.2	11.1	3.03	5.5
D / E レ シ オ ( 倍 )	1.50	1.68	1.56	1.56	1.36	1.36	1.30
営業キャッシュフロー	174	107	581	386	78	△94	-
投資キャッシュフロー	△519	△349	△300	△210	△210	△73	-
フリーキャッシュフロー	△345	△243	281	177	△132	△167	-

(単位:億円)

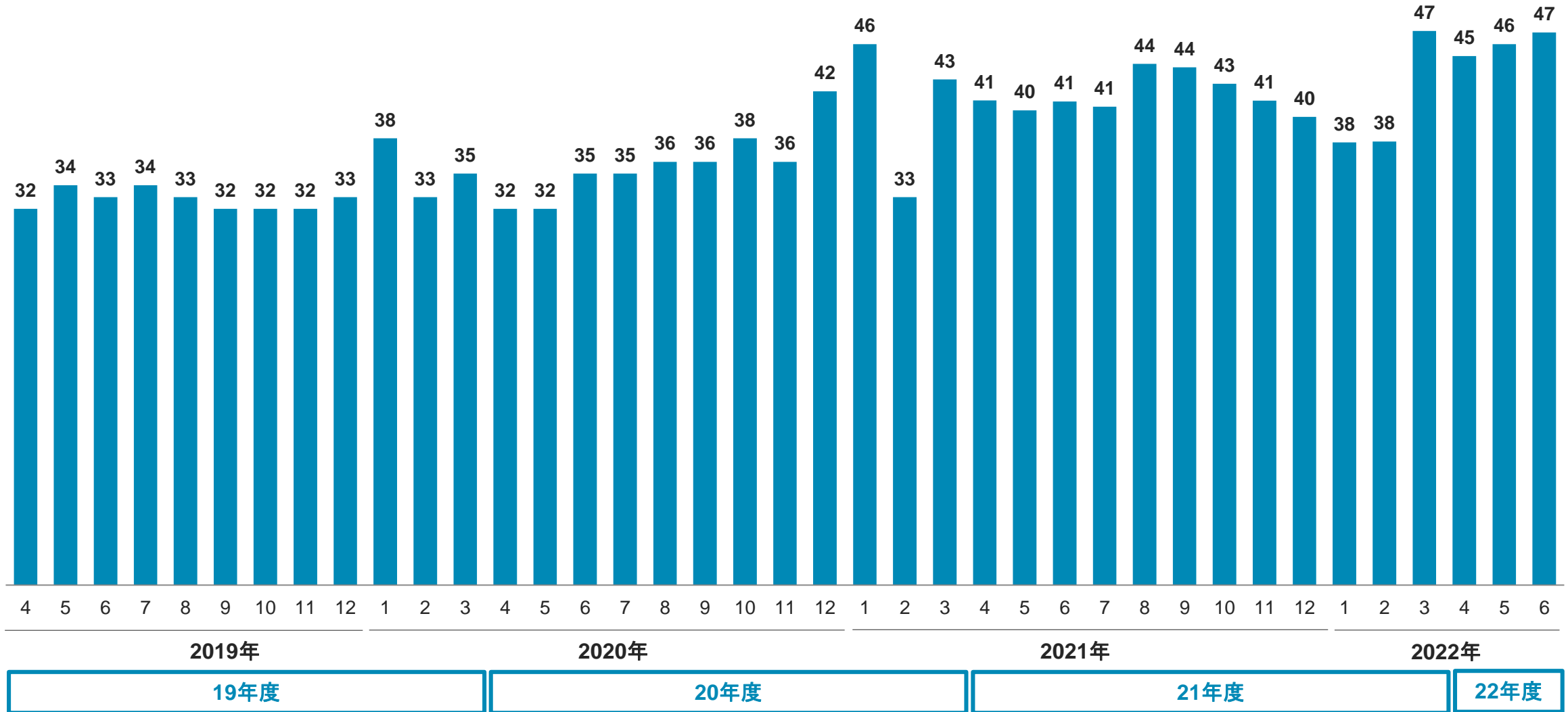
# UATH 月次販売量推移

(単位：千t)

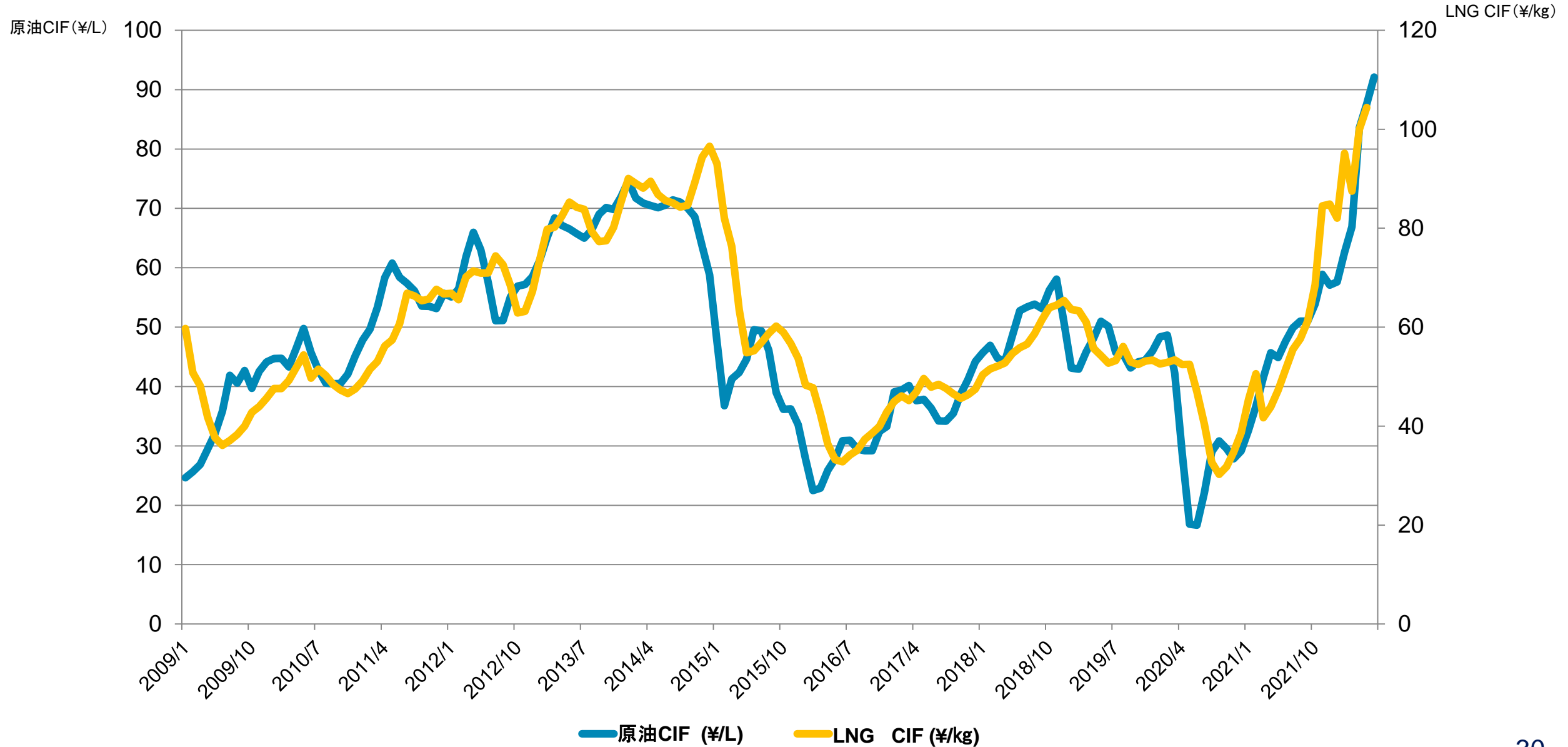


# TAA 月次販売量推移

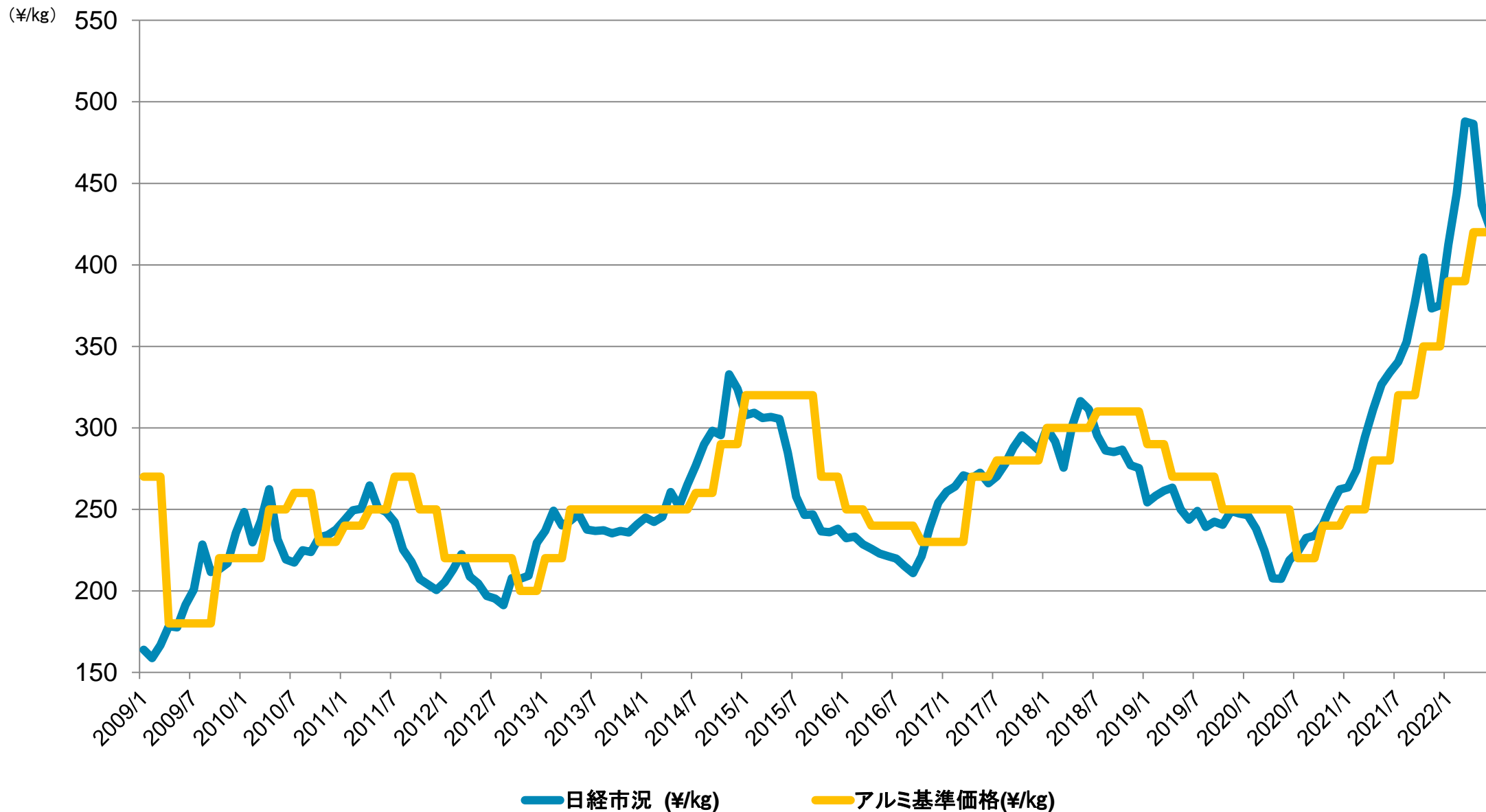
(単位：千t)



# 燃料単価推移



# アルミ地金日経平均・アルミ基準地金





# 棚卸資産影響

## アルミ圧延事業における棚卸資産影響

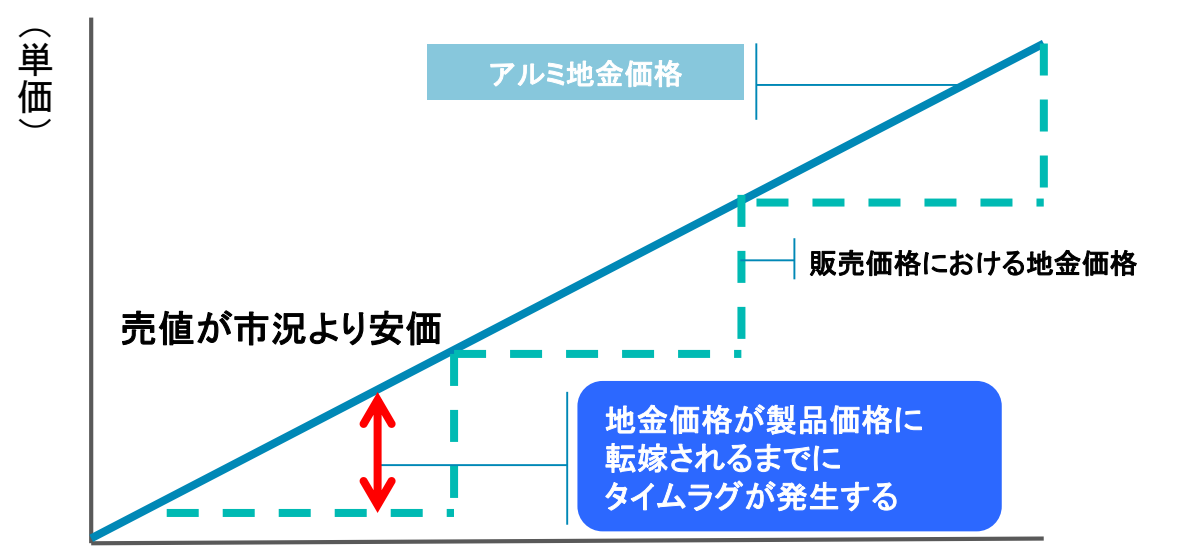
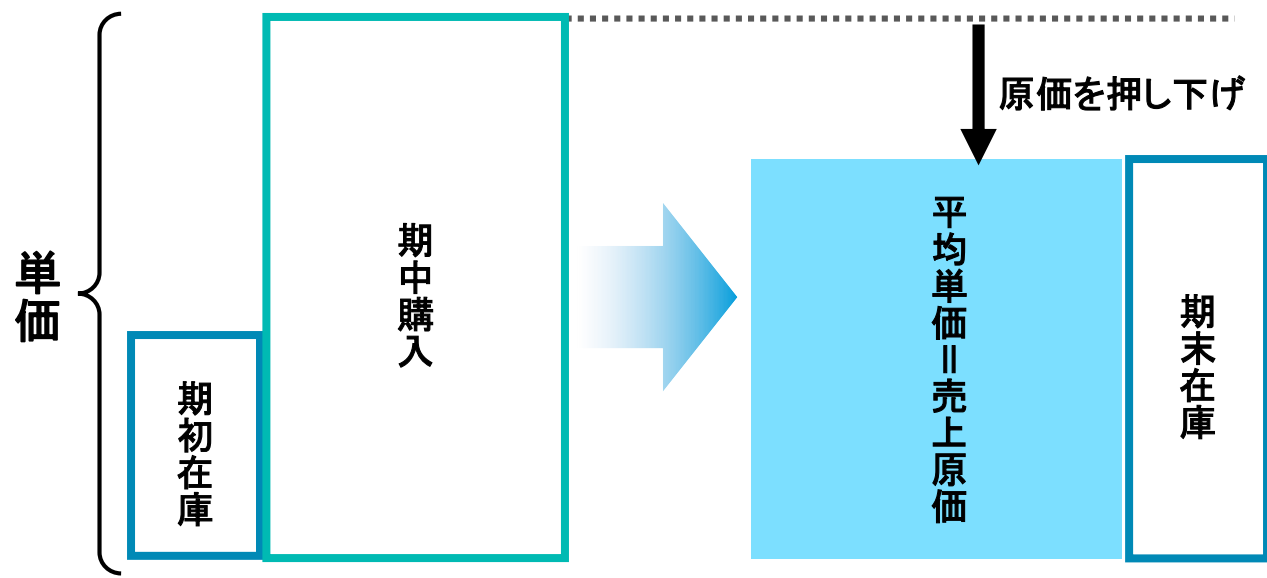
- ① 平均法による材料費計算  
期首在庫と期中購入アルミ地金の加重平均で、材料費を計算(期首在庫が影響)
- ② アルミ地金価格変動による販売価格反映への時間的差

①+ ②= 棚卸資産影響

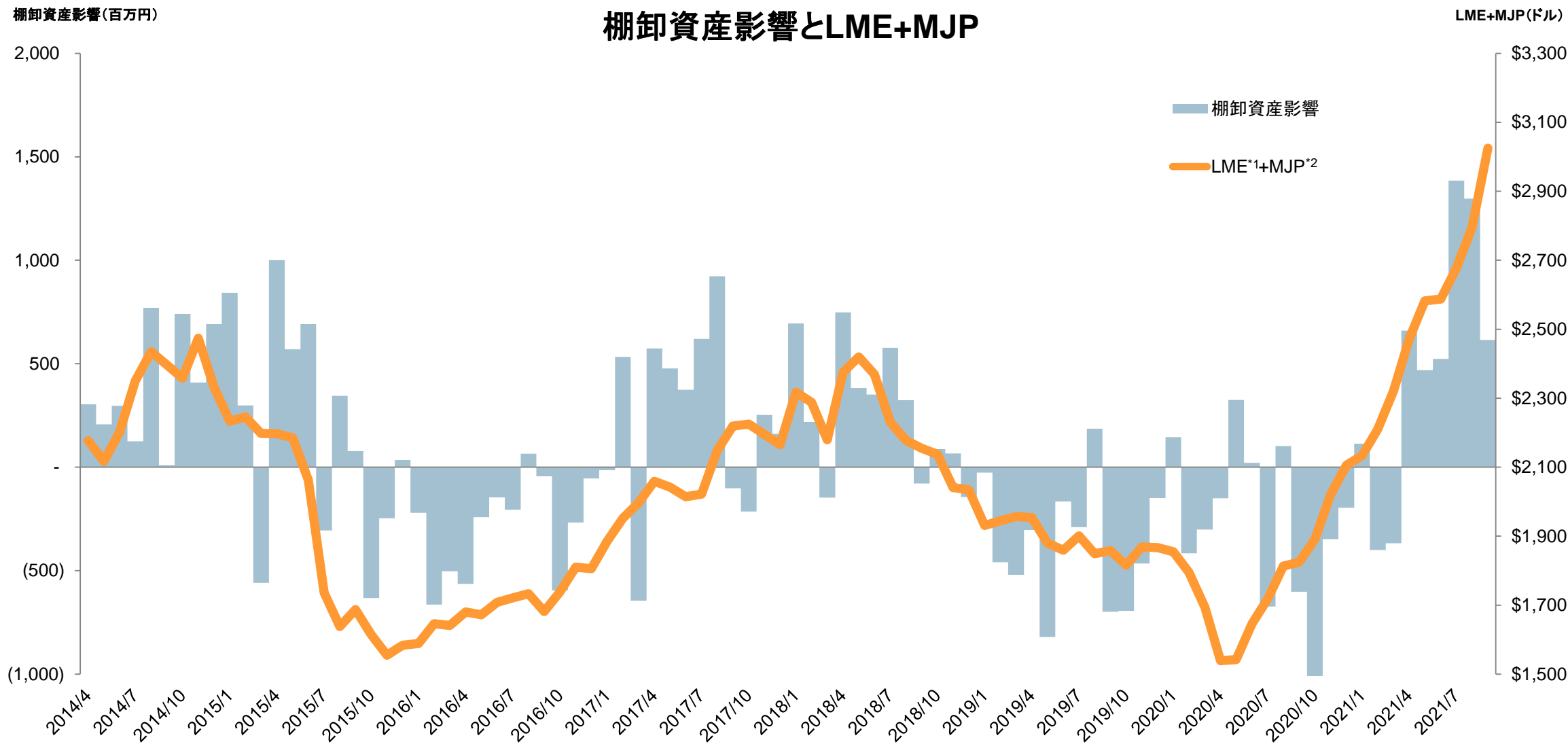
【2021年度:アルミ地金価格上昇】

### ① 平均法による材料費計算

### ② アルミ地金価格変動による販売価格反映への時間的差



# 棚卸資産影響と地金価格相場の関係性



\*1 LME ロンドン金属取引所 (London Metal Exchange) に上場しているコモディティ  
 \*2 MJP 対日アルミ新地金プレミアム

## 将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは、今後さまざまな要因によりこれらの業績見通しとは大きく異なる場合があります、確約や保証を与えるものではないことをご承知おきください。

また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

## 著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、株式会社UACJに帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

本資料並びにIR関係のお問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

財務本部 IR部

[web-contact-ir@ml.uacj.co.jp](mailto:web-contact-ir@ml.uacj.co.jp)

<http://www.uacj.co.jp>

( 東証プライム 証券コード : 5741 )



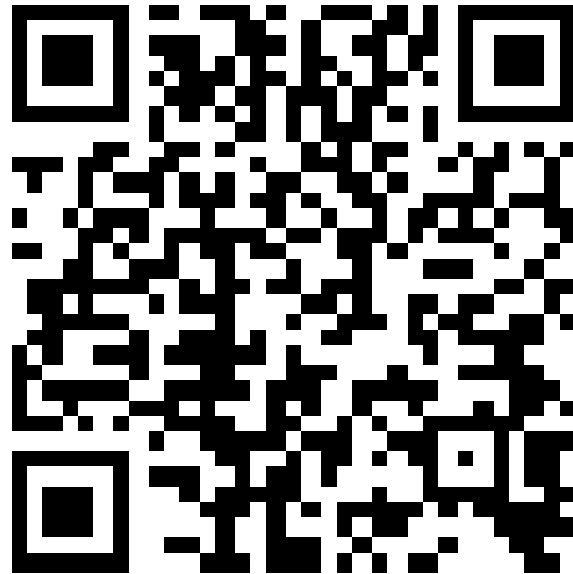
*Aluminum lightens the world*

アルミでかなえる、軽やかな世界

# アンケートのお願い

本日の説明会について、アンケートへのご協力をお願い申し上げます

皆様への情報提供など、今後のIR活動を従前に増して充実いたしたく、ご意見・ご要望をお聞かせいただければ幸いです



ご登録いただく個人情報含む全ての情報は、本アンケートの上記目的以外には使用いたしません